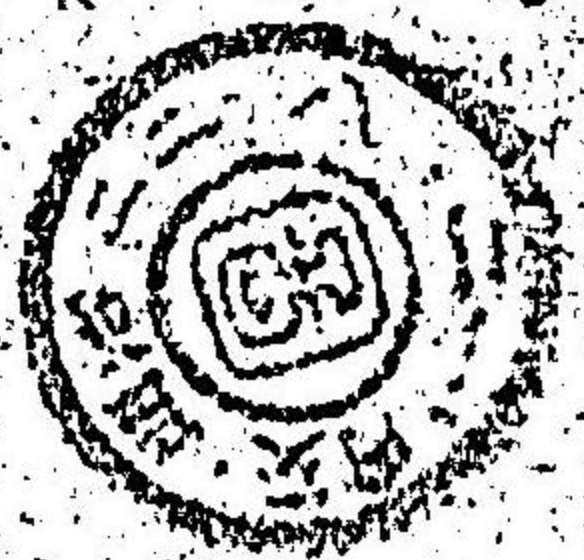


19-180 No. 18894/22

# 印度之新現象

獨逸スピニ子ル氏原著

日本丸山通一譯



版權所有

敬業社發兌



印度之新現象

ソマヂユ



スピンチル 著  
丸山通一 譯

印度之新現象

印度ノ子親愛ナル兄弟覺メヨ起キヨ幸チアル解脱ノ  
長クテ夢ヲ破リ耳ヲ欵テ聽ケ救ヒノ聲ハ  
澄ミテ清シ眼ヲ開キテ見ヨ旭ノ光ハ隈ナク輝ケリ嗚  
嗚呼久シイ哉汝等ノ寐子タル偶像ニ迷ヒ惡習ニ染メリ

タル僧庵ハ牢獄牢獄ハ迷信手擧グ可カラズ足踏ムヘ  
カラス汝等ガ道德ニ病ミ靈魂ニ貧シキ已デニ業ニ久



シ矣汝等ガ困苦ノ杯ハ溢ル、計リナリ」  
 嗚呼哀シイ哉聲ヤ嗚呼壯ナル哉聲ヤ之レ何レノ處  
 ヨリ來ル乎遠クヒマラヤヨリ來ルモノナリ然レド其  
 人ハ已ニ五ツ年ノ前ヘ世ヲ去リテ今ハ即チ亡シ嗚呼  
 印度ハ其ノ最俊ノ子ヲ喪ヘリ之レヲ誰トカスル日ク  
 Keshab Tschander Sen 是ナリ彼レハ其二十五年ノ歲月ヲ  
 印度ノ福祉ニ擲チタリ其事業ハ宗教博愛教育ノ範圍  
 ニ跨カリ更ラニ一人ノ企テ及ブモノナク其名ハ頂ニ  
 達シテ共ニ肩ヲ比ブルモノナカリシカドモ憐ムベシ  
 其晩年ニ及テ讒謗憂苦交モ來リ終ニ悲酸ノ蓋ヲ干サ

ザル可ヲサルニ至レリ蓋シ自ヲ招ク所ナル乎  
 吾人カルクツタニ遊ビ土人ノ住スル街衢ヲ逍遙セハ  
 基督教ノ會堂ニモアラズ又印度的ノ佛堂ニモアラザ  
 ル半バゴードン半ハ東洋風ノ家ヨリ幽カニ清明ナル  
 音ノ出テ來ルヲ聞ク試ニ之レニ入ルトキハ宛然印度  
 人ヨリ成ルプロテスタント教會ヲ見ルノ思ヒアリ堂  
 中圖書ノ裝飾ナク偶像ナシ只タ欄檻ヲ隔テ、質素ナ  
 ル演壇アルノミ而シテ滿場肅々一人ノ印度人出テ、講  
 壇ニ上リ「エーダ」コラーン」聖書等ヨリ數章ヲ朗讀シ  
 更ラニ一場ノ法話ニ移ル思フニ爾心ヲ盡シ精神ヲ盡



シ意ヲ盡シ主ナル爾ノ神ヲ愛ス可シコレ第一ニシテ  
 大ナル誠ナリ第二モ亦タコレニ同シ己レノ如ク爾ノ  
 隣ヲ愛スベシト云ヘル聖書ノ語ニ依レルナラン其辨  
 ヤ壯快敬神仁愛ノ情滿面ニ溢レ餘勢人心ヲ動カス茲  
 ニ至ツテ轉々懷古ノ情ニ堪ヘス蓋シ此ノ情ヤ信仰ヨ  
 リ溢レ出ツル精氣ニシテ嘗テゴルガタ山上ニ於テ其  
 最大ノ凱歌ヲ擧ケタルモノ即チ是ナリ演シ終ルヤ熱  
 心ナル祈禱ヲ奉ル其詞ニ曰ク全能ナル神ヨ我等爾ヲ  
 頌メタ、エ喜ヒ勇サミテ爾ノ妙ヘナル愛ミヲ宣ヘ傳  
 フ爾ハ我等ノ父我等ノ幸ノ泉爾命シ玉ヘバ日ハ我

等ニ光ヲ與ヘ暖ヲ送リ月ハ最ト睦マシク我等ヲ照ラ  
 シテ懇ニ臥床ニ迎フ爾命シ玉ヘハ閃々タル無數ノ星  
 ハ天ニ在リ地ニハ黄金ノ穗ニ滿チテ笑フノ野アリ天  
 地ハ爾ノ有チ玉フトコロ生民ノ幾億モ亦々然ナリ我  
 等ガ目ノ達スルトコロ爾ガ愛ノ奇跡アラザルナシ我  
 等飢レハ爾糧ヲ與ヘ玉フ我等苦メハ爾息ハシメ玉フ  
 敵我等ヲ憂ヘシメ不運我等ヲ悲シマヌレハ爾爲メニ  
 涙ヲ拭ヒ玉フ失望我等ヲ捕ヘントスレハ爾望ト慰ラ  
 送り玉フ我等惡ニ陥リ罪ニ縛ハラルレハ爾心ノ門ヲ  
 叩イテ救ノ避所ニ招キ玉フ我等爾ヲ忘レ爾ヲ求メザ



ル時アレドモ爾ハ常ニ愛ノ翼ヲ伸ベ玉ヒテ恙ナク汝  
 ノ惠ノ蔭ニ息ハシメ玉フ嗚呼主ヨ爾ノ愛イカデ述ヘ  
 盡スモノアラシヤ終ナク涯ナシ願クハ全地ニ爾ノ國  
 フ來ラセ玉ヘ真理ノ日ハ全人類ヲ照ラシ心ハ皆一ニ  
 シテ眞ナル神ヲ拜セヨ我等ノ口ハ絶エセテ爾ヲ頌メ  
 タ、ヘン嗚呼全能ナル主ヨ爾ノ聖ナル名ハ幾千代マ  
 デモ崇メテ限リナカルベシ夫ヨリ會衆ニ祝福ヲ加  
 ス會衆復タ美妙ナル印度ノ聖歌(御和讚)ヲ歌ツテ徐ニ  
 分レ去ル凡ソ四百乃至五百人ハ  
 コレ印度ノ宗教ト社會ノ大改良ヲ企テタル Brahmo Soma-

dsch 或ハ Brahma Samadscha 即チ「神ノ教會」ノ禮拜式ニシテ  
 愛ナル一神ヲ奉シ特ニ一ノ宗教ニ屬スル事ナクシテ  
 普ク宗教ノ精華ヲ摘マシト欲スル者ナリ其ノ如何ナ  
 ル方法ニ依ツテ此ノ大事業ノ目的ヲ達セシトスルヤ  
 ハ試ニ其歴史ヲ探ツテ之レヲ知ラシト欲ス

第一

今ヲ距ルヲ百十五年ベンガトレン州ヲダホグル婆  
 羅門教ヲ奉スル貴族ニ Ram Mohun Roy ナルモノ生マル  
 性剛毅ニシテ眞理ヲ愛ス是ヲ以テ過酷ニシテ氣象ヲ  
 壓制スル婆羅門教的ノ教育ヲ受クルヲ快シトセス常



ニ蒼々タル樹陰ニ杖ヲ曳キ雅言ニ遺ル印度ノ聖歌エ  
 中「ヲ誦シ古昔少印度ニハ斯ク妙ヘナル歌ヲ詠スル  
 モ」アリケルニ今ハ木石ヲ拜スル世トハナリヌト浩  
 嘆スルヲ多カリキト云フロイハ后チバトナナル  
 モハメツド教ノ學校ニ遊ビ初メテセミチツク人種ノ  
 一神教ヲ知ルニ至レリ爾後屢々旅裝ヲ收メ或ハ印度  
 ナル婆羅門教ノ寺院ニ詣リ或ハチベツトナル佛教ノ  
 寺院ヲ尋子或ハ知友ヲ基督教徒ノ社會ニ求メ到ルト  
 コロ各宗教ヲ比較シ之ヲ研究スルヲ怠ラザリキ而シテ  
 其古郷ニ歸ルヤ漸ク國人ノ迷信ヲ破ラシテヲ企テケ

ルガ世ヲ惡ム所トナリ終ニ「ブラマートネ」貴族ヨリ除  
 カレ其父ヨリ勸當ヲ受クルニ至リ又然レド手足ヲ束  
 縛スルモノナキヲ機トシ益々勇進シ其ノ運動ヲ逞ク  
 セル蓋シ英領印度ニ「サチ」ト稱シ寡婦ヲ燒殺スル弊習  
 ヲ絶チタルハ實ニ其功ナリト云ハザル可カラズ  
 時維レ千八百三十年正月朔コレヲ北印度ニ文化上ニ  
 大進歩ヲ現ハスヘキノ機會ナリキラムモフン、ロイ同  
 志ト共ニ「ブラトモ」ソマヂニ「ヲ創立ス元來ロイノ目的  
 タル諸般宗教ノ眞理ヲ講究シ其精ヲ摘ミ其粹ヲ拔キ  
 以テ全世界ニ通ズル一大宗教ヲ作り出タサントスル



ニ在リ故ニ古今ノ印度語及ヒ英吉利語ニ通スルガ上  
 ニペルシヤ、アラビヤ、希拉、希臘ノ語ヲ學ビ聖書「エニダ」  
 「コラ非ン」「ギエンダエスタ」ノ如キ各國ノ經典ヲ其ノ原  
 文ニ就テ講究シ更ニ一新教系ヲ作リテ說教ニ文書ニ  
 之レヲ公ニセリ惜イ哉天之レニ年ヲ假サス幾クモナ  
 ク英國プリストルニ於テ客死シ茲ニ葬ラル之ト實ニ  
 千八百三十三年ナリ  
 ラム、モフン、ロイノ死スルヤ其事業モ亦共ニ枯死スル  
 ニ垂ントシ同志者ハ離散復々婆羅門教ニ歸セントセ  
 シガ幸ニ事未ダ茲ニ及ハスシテロイノ友ノ子 「デベンダ」

「ナート」 Nath Tagore 千八百三十九年 「パトバデーガロ」 Pathyabodiny Subha 即チ「知真協  
 會」ナルモノヲ創立シ千八百四十二年ロイノブラーモ  
 ソマヂニト合併スルニ至レリナート、タゴレロイノ  
 踵ヲ踏ミ其ノ業ヲ紹キケレバブラーモ、ソマヂニ再ヒ  
 振起シ月刊新誌ナル 「パトバデーガロ」 Pathyabodiny Patrica ヲ發行シ印度最  
 古ノ宗教書「エニダ」ハ全ク神ノ默示ナリトロイガ尙ホ  
 株守シタリシ教義ヲ廢シブラーモ、タルマノ信經ニ基  
 主所謂ル印度新一神教會ノ要旨ヲ次ノ如ク確定シタ  
 リ曰ク(一)神ハ一ニシテ心アル事(二)靈魂不滅(三)祈禱(四)  
 懺悔ト解脱カクテ會員ノ數ハ日ニ月ニ増加シ七百六



十七人ヲ計フルニ至リタレドモ短刀直入ノ國民一般ニ改良ヲ及ボスヲ勇ハ多識ヲナリト、タゴールガ教會ニ與フル能サリシトゴロナリキ、千八百五十年齡二十年許ナル青年血氣ノ一男子蹶然崛起シ來リテブラーモソマヂニ加盟セリ此青年ハベ  
ンガールン語及ビ英語ヲ能クシ歐風ノ教育ト印度ノ國情トニ並ビ通シ辨舌巧妙ニ志操高尚神ヲ敬シ世ヲ慨キ志氣勃々實ニ印度ノ欠ク能ハサル至適ノ改革家最要ノ志士之レ誰ゾヤ即チケシヤーブ、チエンデル、セ  
ンニシテ佛教ノ祖釋迦以來嘗テ有ラサル印度ノ大改

革家はナリ氏ハ醫師ノ家ニ生マレタル「ワイヂヤ」(平民)ニシテ蚤トニ英國風ノ教育ヲ受ケ終ニ祖宗ノ宗教タル婆羅門教ヲ棄テ一旦唯物論ヲ奉スルニ至レリ之レ歐風ニ教育サル、印度人ノ常弊トス氏ハ爾后僧院ニ在リシル「テル」其人ノ如ク久シク心裏ノ激戰ヲ經テ漸ク信神ノ光ニ逢ヒ遂ニ導ビカレテブラーモソマヂニ入リシモノナリ、爾后センハ舌ヲ鼓シ筆ヲ振ヒ演說ニ說教ニ或ハ學術的又ハ通俗的ノ論文ニブラーモソマヂノ主義ヲ擴張シテ已マス千八百六十一年ニ於テナート、タゴール



其女ヲ嫁セシメシガ其儀式ハ婆羅門教ニ從ハザリキ  
 又日曜學校ヲ建設成ル次年カルグツタニ中學校ヲ開  
 ク千八百六十四年モンブラーモソマヂユニアハルヤ  
 (會長)トナル故ヲ以テ其家族親戚ノ忌厭スル所トナリ  
 其族姓ヨリ除カレ印度人ノ社會ヲ脱スルニ至レリ  
 千八百六十五年ハブラーモソマヂユノ凶歲ニシテ其  
 進歩ニ滯滞ヲ來タセリ當時重要ナル二箇ノ問題起レ  
 リ乃チ第一異族ノ結婚ハ古來ノ規律ニ反シテ許スベ  
 キ乎第二ブラーモソマヂユニ入ル「ブラマー子」即チ  
 貴族ハ其特權ハ勿論一切關係ヲ棄テザル可ラザル乎

實着ニシテ婆羅門教的ノ貴族政治ニ染ミタルナト  
 タゴトレハ之カ決斷ニ躊躇セシガ勇進活潑只タ及ハ  
 ザルヲ之レ憂フルセンハ之ヲ以テ新一神教(吾人ハ之  
 ヲ ブラーモソマヂユ Brahmoism ト 名ケ其徒ヲ ブラーモ Brahmo ト 稱ス)ノ主義ヨリ來ル  
 避ク可カラサル論ナリトシテ遂ニ平穩ニ分離スル  
 トハナレリ兼テ期シタル「ナガラセン」モ一時途方ニ  
 暮レケン其黨與ト何處ニ行ベキヤ自ラ之レヲ知ラズ  
 ト語リタリ去レド翌年ニ至リ再ビ其徒ヲ糾合シタゴ  
 一保守教會ヲ ブラーモ Adi (舊) ブラーモ Brahmo Somadsch ト 稱シ自己ノ教  
 會ヲ ブラーモ Brahmo Somadsch of India ト 稱ヘタリ斯クテセンノ教



會ハ斷然偶像ト族制ノ撤去ヲ宣言シ全ヒンドスタンヲ  
 風靡セリ而シテハ父祖ノ宗教ト其典式ニ遠カルト  
 共ニ益々自己ノ信仰ノ深カラシク品行ノ清カラシク  
 愛ノ精神ヲ以テ全社會ノ有様ヲ一新セシクテ勉メタ  
 リ素ヨリブラーモ徒ノ事業ハ平且砥ノ如キ道ヲ行ク  
 モノニアラス親戚ニ棄テラレ舊友ニ賤シメラレ涙ニ  
 咽ブ時モ多カリシガ彼等ハ常ニ其祈禱ニ依リテ慰ト  
 カヲ受ケタリキセン自ラ言ヘルアリ〔余屢々弟子等彼  
 ニ言ケルハ主ヨ我等ニ祈ルコトヲ教ヘ給ヘ〕ト云ヘル句  
 ヲ思ヒ出シ從來決シテ聞クヲ欲セザリシトコロノモ

ノヲ聞キ謹ンテ之ヲ信セリ日曜ノ來ル毎ニブラーモ  
 ノ祈禱會ハ天使モ下リ得ル神聖ナル會ノ模範ヲ示シ  
 我等ノ久シク慕ヒタル天父ノ惠ハ深ク每週毎月祈禱  
 會ヲ開キ闇黒ハ變シテ光明トナリ之レト共ニ喜モ望  
 モ益々生長シヌ  
 セント其徒ノ事業タル廣大ニ短少ノ時間ニ容易ク  
 述ベ盡ス能ハズ故ニ只ダ其要點ヲノミ擧ンブラーモ  
 ノ徒ハ六十年代ノ終リニ整頓シタル傳道ヲ創メ教會  
 ハ全印度或ハアッサム及ビラホール或ハマングロー  
 ル及ビボンベイ或ハマドラスニ散在セリ千八百七十



年セシ英國ニ遊ビ基督教的ノ文化ヲ研究シ上女帝ノ  
 玉坐ヨリ下細民ノ陋屋ニ至ルマテ探ラズト云フナ  
 ク或ハ教會及ビ教派ノ禮拜式ニ參シ或ハ議會ノ議事  
 ニ與テ其ノ組織ト運動ヲ視察シ殊ニ熱心ナル演說ニ  
 據ツテ印度ノ改良ニ同感ヲ起サシメントヲ勉メシガ  
 大ニ上下ノ贊成ヲ博シ朝廷ノ待遇スラ甚々鄭重ナリ  
 シ蓋シ其熱心ト膽力ノ致ストコロナリ其ノ倫頓ノセ  
 ントシエームス館ニ於テ阿片及ビ火酒ノ賣買ヲ論スル  
 ヤ日ク咄汝等英人ハソモ何ノ故ニ余ガ同胞ノ道德ヲ  
 破壊スルヤ試ニ余ガ故郷ノ小村落ニ到ツテ見ヨ淳朴

清潔ナル印度人ノ生活ハ如何ニ可憐ゾヤ然ルニ此淳  
 朴此清潔モ今ハ殆ント其跡ヲ絶タントス嗚呼之レ誰  
 ノ罪ゾ汝等ガ齎ラセシモノ曰ク電線曰ク鐵道スベテ  
 之レ文明ノ器汝等ガ傳ヘシトコロノモノ曰クセキス  
 ピーヤ曰クミルトンスベテコレ文明ノ花吾等豈ニ之  
 レヲ謝スルコトヲ知ラサランヤ然レドモ少年ニ火酒  
 ヲ嗜ムコトヲ教ヘタルモノ亦タ汝等英人ニアラズヤ  
 慘ナル哉慘ナル哉今ヤ有爲ノ壯士有望ノ青年ニシテ  
 空シク狂水ノ犠牲トナルモノ歳ニ其幾千ナルヲ知ラ  
 ズ英政府夫レ心ナキ乎何ゾ阿片ノ輸出ヲ禁セザル千



万ノ清人ハ之レニ據テ屠殺セラル、ニアラズヤ何ツ火  
 酒ノ輸出ヲ禁セサル我ガ同胞ノ心身ハ之カ爲メ亡ホ  
 サル、ニアラスヤ英政府若シ心アラハ宜ク速ニ之レ  
 ラシテ過去ノ歴史タラシメヨ汝等試ニ自ラ問ヘ汝等  
 ヲシテ印度ニ斯カル貿易ヲ營マシムルモノハ抑モ何  
 ズヤ只タ是レ利慾英政府ガ之レヲ慾慥スル所以ノモ  
 ノハ何ソヤ曰ク金曰ク金又タ基督及ヒ基督教ニ就テ  
 述フル所ヲ聞クニ曰ク借間ス天國ハ何レノ處ニカア  
 ル教派ト云ヒ教會ト云ヒ各々余ニ示スニ一ツノ福音  
 ノ眞理アルヲ以テスルノミ汝等基督教信徒兄弟姉妹

ヨ縱令英國佛朗西獨逸瑞西以太利魯西亞ニ分屬スル  
 モ又歐タリ米タルモ何ゾ教會教派ヲ四分五裂セシム  
 ルノ痴愚ヲナスヘケンヤ余ハ今夕愛ノ宗教ノ贊成者  
 トシテ茲ニ在リ神ノ教會ノ一致ヲ万国ノ民ニ傳ヘン  
 ト欲スル情極メテ切ナリ唯タ余ガ聲ノ微ナルヲ憾ム  
 ノミ嗚呼分裂ハ宜シク墓ニ入ルヘシ過去ノ過ハ吾人  
 今之ヲ改メント欲ス去レド幸ニ余ガ意ヲ誤解スル勿  
 レ余ハ決シテ汝等ニ不快ノ念ヲ起サシメ汝等ノ信經  
 ヲ奪ハントスルニハアラス縱令ヒ信仰スルトコロ主  
 義トスル所ニ多少異同アルニモセヨ苟モ神ノ子タラ



ント欲スルモノハ共ニ手ヲ携ヘテ親愛ノ情ヲ表セザ  
 ル可ラスト云フナリ基督ノ精神即チ敬神仁愛ノ精神  
 ヲシテ地上ノ男女老幼ノ心ニ常住セシメヨ斯クテコ  
 ソ主ハ榮光ヲ盡シテ顯ハレ地ハ樂土トナラン余豈ニ  
 辨ヲ好マンヤ情ノ止ム能ザルアレバナリ請フ各教派  
 軋轢ヲ止メテ神僕互ニ其演壇ヲ讓リ各教會互ニソノ  
 兄弟姉妹ヲ納レテ共ニ敬愛ノ手ヲ握レ斯クテコソ神  
 ノ愛英國ノ信徒ニ溢レン夫レイエスノ豫言セル教會  
 ハ此處彼處ニ散在セル二百五十ノ教派ニアラズ万国  
 ノ民擧ケテ一場ノ「コール」万聲相和シ以テ天地ヲ轟カ

ス所ゾ之レナル神ハ吾等ノ父隣人ハ吾等ノ兄弟ナリ  
 ト云フトコロゾ之レナル「セン」ノ志想ノ高尚ナル其ノ  
 度量ノ快濶ナル凡ソ斯クノ如シ  
 セン印度ニ歸リ インディアン Indian Reform Association (印度匡濟協會)ヲ  
 起ス其目的五ツ曰ク女子ノ進位、教育、善且ツ廉ナル書  
 籍ノ頒布、矯風及ヒ救助センノ演說說教ニ集ルモノ屢  
 ヤ千ヲ以テ數ヘ「プラー」モイスム「ス」ノ雜誌ヒマラヤ  
 ヨリクマリノ岬ニ至ルマテ傳播セラル千八百七十  
 二年セン其徒 プロタプ Protap ツチャンドラ Tschandrar マズムンダ Mazumdar トプラーモ結婚律  
 ヲ制定シ基督教的ノ結婚ト凡ベテ「プラー」子「ン」ノ主



典ヲ受ケザル結婚ヲ許ルシ所謂幼兒結婚ノ弊ヲ除カ  
ン爲メニ可婚期ヲ男子十八歳女子十四歳ト定メタリ  
尺善寸魔ハ人生避ク可ラサルノ數ナルカブラーモイ  
スムースノ平穩ナル進歩ニ再ヒ妨碍ヲ生シタリ千八  
百七十八年セン其女ヲクツチユ、ビハルノ王 Maharajah  
ニ與フ然ルニ自ラ制定セルブラーモ結婚律ニ從ヘバ  
何レモ可婚期ニ達セズノ王ハ方ニ十七歳ナル上ニ婚  
禮モ半ハ婆羅門教風ナリシ素ヨリセンハ初メヨリ斯  
ル矛盾ヲ爲スノ意アリシニハアヲズノ全ク媒价者タ  
ル英人トブラマーネンニ欺カレタルニ因ルモノ、如

シサハ云ヘ此結婚ハ「ブラーモ、ソマヂユ」ノ主義ノ蔽フ  
ベカラサル齟齬ナルヲ以テ「ブラーモ」ノ徒ニ大ナル不  
快ノ感ヲ與ヘタリ加フルニセンノ威權盛ナル爲メ往  
々不平ノ徒モアリケレハ遂ニ又タ Sadharan (普及) Brahmo So-  
madseh ノ設立ヲ見ルニ至リ又「サダラン、ブラーモ、ソマヂ  
ユ」ハ一層急進主義ヲ取ルモノナリ地方ノ教會ニシテ  
之レニ加盟スルモノモ多ク又タ舊ニ依ツテセンニ属  
スルモ少ナカラズ又タカルクツタノ教會ト斷然關係  
ヲ絶ツモアリキ斯ク分裂ノ后チ暫ク兩教會ノ間ニ不  
快ノ念ヲ横ヘタルハ云フマデモナケレトモセンハ殊



ニ慎ミテ過失ナカラシコトヲ勉メ爾來益々悟道ニ心ヲ留メ古婆羅門教ト基督教ノ奧義ヲ究メントセリ后チ其教會ヲ *Navavidhan* 即チ「新黙示」ト改稱セリト雖モ千八百七十八年以來決シテ新シキ教ヲ傳ヘタルニハアラズ只ダ婆羅門教ト基督教ヨリ宗教的ノ語ヲ假ルト多カリシノミ去レド印度人ノ如キハセンハ基督信徒トナレリトノ評ヲ爲ス者多ク漸々國人及歐人ノ誤解ヲ招クニ至リシカバセンハ田舎ニ退キ「マンデール」即チ「ブラーモ」神屋ノ說法者トナリ日々蒼鬱タル樹陰ニ知人朋友ヲ集メテ教導スルヲ務トシタリシニ千八百



八十四年一月八日卒カニ死ス時ニ年四十五全印度爲メニ哭ス其死スル前余ニ寄セタル書簡ニ因レハ彼レハ末路輻軻極メテ悲ムヘキモノナリシモ爲メニ毫モ其志ヲ挫カス固ク平生ノ主義ヲ執リ死ニ至ルマテ之ヲ守リシモノ、如シ元來センハ卓犖不羈ノ士ナリ印度ノ改革彼レニ其賜ヲ負フ極メテ多シ然レモ印度的ノ神秘主義ハ亦彼レノ深ク信スル所ニシテ其思想言行之レニ感染セラレ吾人ノ往々思惟スヘカラサル者ナキニアラスセンノ死后尙ホ三大教會鼎足ノ勢ヲ存セリ *Adi Brahma Somadsch, Brahma Somadsch of India* 即チ *Navavidhan*



及 <sup>サハヤン</sup> Sadharan <sup>ブラーホ</sup> Brahmo <sup>ソマヂ</sup> Somadsch 之ナリ

第二

茲ニ至ツテ問ハンセンノ喚起鼓動シ來リタル此ノ運動ハ何ゾヤ曰ク印度ノ宗教道德及ビ社會上ノ改良ナリ請フ是ヨリ簡單ニ之レヲ述ヘシメヨ夫レ深ク印度ノ骨髓ニ沁入セル病毒ハ父祖ノ職業ヲ繼ギ堅ク身分ノ混合ヲ禁スル族制ニ外ナラス此ノ巖石モ啻ナラザル族制ニ向ヒ敢テ鑿拳ヲ振テ第一撃ヲ加ヘタルハ實ニ「ブラーモ、ソマヂ」ノ偉功ナリトス縱令ヒ餘弊未ダ直チニ跡ヲ絶タズ <sup>ブラーモ</sup> Brahmo (僧即チ貴族) 或ハ <sup>ブーニヤ</sup> Bania (商人)

ガ <sup>スディア</sup> Sudia (穢多) ニ觸レタルガ故ニ若クハ <sup>パリア</sup> Pariah (同上) ノ一層賤メラルルモノヲ一目シタルガ故ニベナーレスニ詣リテガングスノ水ニ身ヲ清ムルガ如キ后チ尙ホ數十年ニ亘ルニモセヨ「ブラマーネン」ノ城壁ハ遂ニ支フ可キニアラズ普通教育殊ニ從來等閑ニ附セラレタル女子教育ハ亦タ「ブラーモ」ノ徒ガ唱張スル所ニシテ「ブラーモ」ノ徒ノ在ルトコロニハ必ス亦タ學校ノ設アリ幼稚園アリ小學校アリ中學校アリカルクツタニハ女子師範學校アリ其他センノ創立セル「ブラーモ」神學校ニ到ラバ定期試験ニシヨン、ロツクノ四大哲理ヲ擧ゲ



其ノ神學道學政學ニ及ボス影響ヲ論ゼヨト云フガ如キ問題ヲ聞キ印度青年ノ學識ニ驚クアラン又タ印度婦人ヲ其ノ *Nehru* (籠居) ヨリ放チ之ヲシテ有爲貞實ナル母トナラシムルモノ「ブラーモ、ソマヂユ」ノ賜ナリ蓋シ「ブラーモ、ソマヂユ」ノ印度ニ於ケルハ基督教ノ歐州ニ於ケルガ如ク然リ

人往々英人ヲ責ムルニ聖書及ヒセキスピーアト共ニ酒瓶ヲ齎ラセシ「」ヲ以テス其當否ハ暫ク措キ三十餘年來印度人が火酒ノ害ニ罹カリシモノ、多キハ爭フ可カラザル事實ナリ「ブラーモ、ソマヂユ」ハ之レニ對シ

テ有力ナル運動ヲ爲シ學生社會ニモカルクツタニ於ケル *Band of Hope* (バンダ・オブ・ホープ) ノ如キ會ヲ見ルニ至レリ其他演説ニ雜誌ニ此ノ事業ヲ援クルモノ比々トシテ起リ在印度英國政廳モ「アルコール」飲料賣買使用條令ヲ頒布スルニ至レリ蓋シセンノ力與ツテ多キニ居ル其他「ブラーモ、ソマヂユ」ニ謝スヘキモノハ篤志ヲ以テ貧人ヲ救濟シ不具ヲ保護スルノ組織ヲ獎勵スル「」ナリトス

印度人ノ生活ハ古來宗教ト密接ノ關係アリテ事大小トナク之レガ左右スル所ロタラザルナシ故ニ「ブラーモ、ソマヂユ」ガ万般ノ事業ニ着手スル第一歩ハ亦タ宗



教改革ナラザル可カラズセン教ヘテ日ク〔拜佛ヲ絶テ  
 神ハ一ナリ靈ナリ全智全能ニシテ天地ヲ作り之レヲ  
 守ル人生ノ父ナリ人生ノ救主ナリ モセス Moses, ブツダ Buddha, クリスト Christ,  
モハンマド Mohammed 印度ノ志士 ナーナク Nanak 及ビ チャイヤ Chaitanya 總ベテコレ偉人  
 豪傑サレド只ダ人ノミ而シテ其最モ大ナル者ヲクリ  
 ストトス然リ彼レハ人世ニ卓絶セリ彼レハ人世ヲ救  
 ハントスル神ノ攝理ニ依テ此世ニ降サレ其ノ鴻圖偉  
 業ノ爲メニ特ニ智ト力ヲ受ケタルモノナリ而シテ神ト  
 人ヲ愛スル者ハ即チ基督ニ均シク永生ノ命ヲ得ン基  
 督ハ決シテ己レノ崇拜セラル、トヲ望マザリシ拜ス

ベキモノハ只ターノ神アルノミサハ云へ余ハ基督ガ  
 「爾等ノ敵ヲ愛セヨ」ト説キタルヲ聞カザルニアラズ良  
 シヤ基督信徒タラザルモ基督ノ一生ト其ノ死トヲ見  
 ルモノハ誰レカ感憤慷慨セサルモノアラシヤ其ノ他  
 「ブラーモ、ソマヂユ」ノ教ユル所ハ「人類ハスベテ一族ナ  
 リ凡ベテ唯ターノ父ノ子タリ互ヒニ兄弟タレハ相愛  
 スベキトヲ忘ル可カラス人各懺悔ト信仰ニ依ツテ再  
 生シ神ノ恵ミニヨリテ神靈ト共ニ在ルノ幸福ニ達セ  
 ヲ」云々蓋シ此ノ信仰ヨリ出ヅル幸福ハ「ブラーモ」モ基  
 督信徒モ均シク目シテ最大ノ珍寶トナスモノナリ



「ブラーモソマヂユ」ガ抑モ何様ナル方法ヲ取リテ傳道  
 ヲナシタルヤ請フ次ニ記ルストコロニ據テ之ヲ知レ  
 ベンガーレンノギニアハ昔シ佛陀カ菩提樹ノ下ニ在  
 リテ夢ミシトコロナルガ其ノ「ステーション」ノ「ベルロ  
 ン」ニ許多ノ人々群ヲ成シテ集リ居レリ浩處ニカルク  
 ツタノ方ヨリ黒烟ヲ吐キ一列ノ汽車突進シ來レルガ  
 兼テ待チ設ケタル其人ノ列車中ニアリシカ歡聲湧ガ  
 如ク人々東西ニ奔走セリ頓ガテ質素ニ身作りタル一  
 行ノ印度人悠然汽車ヲ下ル其ノ中一個ノ壯士アリ人  
 ヤ之レニ向テ尊敬ノ意ヲ表セリ之レ即チケシヤープ

チエンドルセンナリ群衆ヲ押シ分ケツ、停車場ヲ出  
 ツレハ兼子テ準備セル盛飾ノ馬車アリセン一禮シテ  
 之レヲ辭シ質素ナル車ヲ驅テ都ニ入レリ時是レ千八  
 百七十九年十一月十八日ノ夕ナリキ此日モ例ノ如ク  
 數千ノ旅客遠ク西藏ヨリ來リテ佛堂ニ詣ツルモノ織  
 ルカ如シ翌朝モ婆羅門教ノ巡禮者ハ寺院ニ市街ニガ  
 ート「トハ河ニ下ル階ヲ云フ」ニ到ル處山ヲナシ鼓聲  
 喧囂殆ント耳ヲ破ラントス斯カル雜沓喧噪ノ中ニ於  
 テセンノ徒ハ靜カニ小高キ處ニ集レリ其ノトキセン  
 ハ除ロニ立テ群リ來ル數千ノ人々ニ向ヒ先ツ英語ヲ



以テ次ニ印度ノ方言ヲ以テ沼ヤト偶像教ノ妄想迷信  
 ヲ駁撃シ教祖佛陀ノ道德智識ノ欽慕スヘキ模範タル  
 コトヲ示シ又々堂ヲ守ル Gyali 等ガ無法ナル布施ヲ求  
 ムルノ非ナルヲ鳴シ終リニ熱心ナル祈禱ヲ獻シ群衆  
 「ザンキールタン」ヲ歌フ其ノ聲ノ美妙ナル心魂ヲシテ  
 天堂ニ遊ハシムルノ思アリ回顧スレハ釋伽牟尼佛陀  
 カ太子ノ身ヲ以テ乞丐ノ衣ヲ纏ヒ悟道ノ爲ニ茲ニ在  
 リタルハ今ヲ距ル凡ソ二千五百年ノ昔ナルガ今ヤセ  
 シ亦タ茲ニ來ツテ憐ム可キ印度ニ幸福ノ光リヲ與ヘ  
 シコトヲ祈レリ嗚呼ギニアノ地何ゾ聖賢ヲ載スルノ

多キヤ

月光清朗俯シテ眺ムレハ地上亦タ一帯ノ銀河ヲ見ル  
 何等ノ奇景何等ノ壯觀ゾ是レガンゲス河畔ガデプー  
 ルノ夜色ナリ見渡セバ宏壯華麗ナル Thornhill ト稱スル  
 「ガート」ニ一團ノ群衆アリ其數凡ソ三百多クハヒンド  
 スタン人ニシテ歐人モ亦タ少カラズ此處ニハ英國ノ  
 商人法官教授及ビ藍田主彼處ニハ亦タベンガーレン  
 ノ Babu (君ト云フガ如シ)老イタル「ブラマ―ネ」ペンヂヤ  
 ーブノ Pandit (學者) Zemindar (官吏)錦繡ヲ装ヘル「ブ―ニ  
 ヤ」無智ノ Firihumindi (無賴漢)勇猛ナル「シ―ク」寸暇ヲ偷



ミタル <sup>Durvan</sup> (僕) 總ベテ之レガングス絶景ノ名畫ニ風  
 致ヲ添ユル可憐ノ好人物トス夜稍ク更ケ行クマ、猶  
 ホ「ガート」ノ上ニ止マリ耳ヲ側テ、一個ノ印度人ノ語  
 ルヲ聞ク其語ル所ハ印度ノ振起ナリ族制ノ廢止ナリ  
 亞片賣買ノ撤去ナリ歐風ニ教育サレタル印度人ノ唯  
 物論ヲ駁スルナリ殊ニ「ブラマ―ネン」ノ欺詐ヲ撃チ偶  
 像教ノ弊害ヲ論ズルナリ暫クシテ月光ノ燦爛タルヲ  
 仰ギ見慨然呼テ曰ク「汝万物ヲ作り万物ヲ守ル所ノ神  
 ト其愛ニ付テ吾ニ告ク可キ「ナキカ」ト再ヒ衆ニ向テ  
 其一神教ノ大意ヲ述ルヤ忽チ聞ク喇叭ノ聲衆沈思低

徊各其家ニ還ル中ニ印度人アリベンガ―レン及ヒヒ  
 ンドスタンノ聖歌ヲ謠テ去ル時ハ是レ千八百七十九  
 年十二月朔其人ハ誰ソ聞ク者已ニ知ランケシヤ「ブ  
 チエन्दル、セン」之ナリ

## 第三

「ブラ―モ」ノ徒ハ果シテ基督信徒乎試ニ之ニ問ハ「答  
 テ云ハン「我ハ基督信徒ニアラズ」トセン嘗テ云ヘルア  
 リ「基督信徒ハ言フ此教義ヲ取レ彼儀式ヲ守レ又此教  
 ヲ信セヨ然ラハ汝救ハル可シト吾試ニ基督ニ行テ之  
 レニ問ハ「彼ハ云フ只心ノ清潔ナルノ外天國ニ入ル



ノ門ナシト奇ナル哉何ゾ齟齬ノ甚シキヤ「ブラーモ」ノ徒ハ基督ノ弟子タリト云フヲ辭セス去レド世ノ所謂ル基督信徒タルヲ欲セス「ト蓋シ彼レハ所謂ル基督信徒タル者ノ品行及ヒ各種ノ相矛盾セル信經ハイエスキリストノ福音ニ一致セズト爲スナリ去レドロイ、タゴーレ、セン皆基督教ヨリ博愛ノ道ヲ得タルトヲ知ルヲ以テ其ノ主義ハ凡百ノ宗教ヨリ精華ヲ摘ムニアルニ係ラス特ニ意ヲ基督教ニ屬シ專ラ其蒞奥ヲ窮メンコトヲ勉メタリ

古來印度ヨリ出テ高尚ナル教ヲ傳ヘタルモノ其人ニ

乏シカラス紀元前五百年ノ頃佛陀其解脱ノ道ヲ傳タヘ道德ノ教ヲ布ク佛陀ノ死スルヤ印度ノ生民其歸適スル所ヲ知ラス遂ニ再ヒ偶像ノ膝下ニ跪キ剩ヘ佛陀ヲ偶像ノ一ニ加フルニ至レリ後チ十二世紀ヨリ十五世紀ニ至ルノ間 *Ramanuya, Madhava, Vallabhacarya, Chaitanya* 出テ、一神ノ教ヲ首唱シ信仰ト愛ヲ宜ベタルモ事未ダ半バナラズシテ身先ツ死シ其徒再ヒ *Vischnu* ヲ拜シ *Agni* ニ牲スルニ至リ志士ノ心事徒ラニ婆羅門教ノ一新派ヲ作ルニ終ル爰ニ至ツテ機工 *Kabir* 出テ、唯一ナル愛ノ神アルトヲ説キ族制ヲ駁シテ曰ク神ヲ愛シ善ヲ行



フモノ凡テ是レ兄弟印度教徒タランカマホメツト教徒  
 タランカ何ノ異ル所カアラント其弟子 *Zanak Shah* 師  
 ノ衣鉢ヲ嗣ギシクノ教會ヲ起シ時運漸ク挽回セラ  
 ル、ニ垂ンタリシモシヤ死シテ其弟子濫リニ兵戟  
 ヲ弄シ *Rama* 其ノ神トナリ其ノ預言者ハ *Quru* ナル神ト  
 シテ拜セラル、ニ至レリ此ノ數十年ノ間復タ神聖ナ  
 ル熱情印度ヲ攪亂シ管ニブラーモ社會ノミナラズ印  
 度ヲハビ―テンノマホメツト教徒モ一千八百七十七  
 年以來ベナ―レスノ法官 *Amud Khan* 及ヒ「ニツアム」ノ  
 僧 *Salat Yung* ノ指揮ノ下ニ悟道ヲ深クセンコヲ務メリ

「ブラマ―ネ」ナルグゼラツトノ人 *Dayananda Sarasvati Sivami*  
 モ數年來ヒマラヤノ北ヨリクマリノ岬ノ南ニ至ルマ  
 デ錫ヲ引テ唯一ノ愛ノ神ヲ傳フ只輪廻ト「エ―ダ」ノ默  
 示ハ其ノ棄ル能ハサルトコロナリ  
 夫レ斯カル運動ヲ贊助シテ其ノ主義ヲシテ益々高尚  
 ニ其ノ目的ヲシテ益々遠大ニ其ノ方法ヲシテ益々純  
 良タラシムルモノハ基督教國タル歐洲ノ義務ニシテ  
 早晚亦タ日本國ガ與カルベキトコロニアラズヤセン  
 曾テ云ヘルアリ曰ク「嗚呼何レノ日カ白色ノ人銅色ノ  
 民互ニ手ヲ執テ兄ト呼ヒ弟ト稱フルヲ得ン望ムラク



八人種的ノ敵心ハ止ミ苟モ愛ニ反スルモノハ亡ビ英國モ印度モ歐洲モ亞洲モ唯々敬神ノ至情ト不易ノ真理ニ於テ一ナランコト若シ歐洲ト亞洲ガ一致協力以テ宏壯美麗ノ事業ヲ圖ルセンノ夢想セシガ如クナルヲ得バ印度モ亦々幸福ノ日ヲ迎ヘ「ブラーモ」ノ箴言モ亦々空シカラザルベシ曰ク「真理ハ勝タン」

“Sathyameva Jayatei.”

附 錄

佛陀以來印度ノ宗教沿革ニ關シテハ時間ノ短少ナルガ爲メ只ダ改革家ヲ指名スルニ止マリタレバ今再ビ簡短ニ之レヲ述ベ讀者ノ便ニ供セントス

佛教ガ婆羅門教ニ逐ハレ印度ノ大陸ヲ去ツテ只ダ *Dschaina* 宗トシテ殘喘ヲ繋キ居ルコトハ人ノ能ク知ルトコロナルガ全宗ノ祖ハ *Mahavira* ト稱スル人ニシテ神トシ敬セラル、二十四勇士ノ最終ナリヂヤイナ宗ノ祖ハ佛陀ノ後ニ生活セシモノニテ其ノ教ハ佛教ヨリ出デタルモノナリトハ普通ノ説ナルガ獨逸ノサンスク



リツト語學者ヤコビ―ハ之レヲ駁シテマハ井ヲハ佛  
 陀ト同時ニ在リテ其ノ教モ同時ニ興リ佛教ノ干涉ヲ  
 受ケタル者ニアラストセリ加之ナラズヂヤイナ宗ヲ  
 佛教ノ母ナリトスルモノモ少カラス去レド固ヨリ取  
 ルニ足ラザル説ナルガ如シ兩宗ニ共有スルトコロノ  
 モノハ「エ―ダ」ヲ撥斥スルコト神トシテ人ヲ拜スルコ  
 及ビ殺生禁制ナリヂヤイナノ徒ハ水ヲ飲ムニ先ヅ之  
 レヲ濾過シ坐スルトキハ先ツ其ノ席ヲ拂フ暗處ニ飲  
 食ヲナサズ或ハ虫ノ入ラシコトヲ恐レテ綿布ヲ以テ口

※Atscharanga sutra 及 ヲ kalpasutra (マハ井ヲノ傳)ノ譯者

ヲ覆フモノモ多シ又核アル果實ヲ食フコトヲ得ザレバ  
 肉類ニ至ツテハ觸ル、コトヲモ得ス  
 十四世紀ニ至テ *Ramananda* 出デ、佛陀ニ倣ヒ婆羅門教  
 ガ再興セシ族制ヲ排シ四海兄弟ヲ唱道セリ最モ著名  
 ニシテセンガ屢々口ニセシハカルクツタニ近キナヂ  
 ヤノ「*ブラマ―チ*」*Chaitanya* ニテ千四百八十五年ニ生ル  
 氏ハセンノ如ク非常ニ熱心ナリシガ其極逐ニ人事不  
 省ニ至ルコト多カリキ去レド尙ホ深ク井ツシユヌ―多  
 神教ニ染ミタルニ似ズ推理及ビ苦業ヲ重ンゼス寧ロ  
 神ニ一身ヲ托スルコトヲ勉メタリ尤モ其ノ神ト云フハ



近世ノ <sup>ヒンズイストム</sup>Hinduism (譯者曰ク印度教トハ佛教放逐后ノ婆  
羅門教ヲ云ナリ)ニ於テ通俗ニシテ不道德ナル <sup>クリシュナ</sup>Krishna  
ナレモ其唱道スル所ハ品行ノ清キト及ビ社會ノ弊風  
ヲ除クニ在リ「ブラマ―ネン」カ佛教ニ敵スルニ大切ナ  
ル神ハ温和ナル非シユヌ―ニシテ <sup>スプタニナラヤン</sup>Sputani Narayanノ派ノ  
如キ改革派ヨリ基ケラレタル主神ナリ當時ノ非シユ  
ヌ―教ハ <sup>ヒンズイストム</sup>印度教ノ進歩シタルモノニ位シ稍ヤ自由ノ  
元子ヲ含有シタレドモ <sup>シウバ</sup>Shiva 教ハ先祖傳來ノ惡鬼教  
ト聯合スル極端ノ多神的印度教ナリ非シユヌ―教ノ  
改革ハ凡テ <sup>バクティ</sup>Bhakti 即チ「唯一ノ神ニ身ヲ托スル」ヲ重シ

ズル「ブラ―モ、ソマヂユ」ノ如シ只タ其ノ神ガ多少醜  
聲アルクリシユナナルヲ憾ムノミ  
改革ノ一層著ルシキハ十五世紀以來「マホメツト教」ノ  
企テタルモノ之レナリマホメツト教徒ハ八世紀以降  
印度ニ闖入シ <sup>ガズネキヤン</sup>Ghasneviden, <sup>チリヂン</sup>Ghuriden, <sup>チムル</sup>Timurノ朝ニ於テ印度  
ノ進歩ニ大ナル影響ヲ及ボセリマホメツト教ヨリ出  
テタル改革家ハ「ラマナンダ」ノ弟子ニシテ千四百五十  
年ノ比口世ニ出デタル <sup>カブール</sup>Kabirヲ以テ嚆矢トス印度人ハ  
彼ハ印度教徒ナリト云ヒマホメツト教徒ハマホメツ  
ト教徒ナリト云ヘリカビールハマホメツト教ト印度



教ニ據ツテ一神ヲ教エ世界ハ妄想ナリ輪廻アリ化身  
 アリトシ族制ブラマ―ネン政治 *Schastra* (譯者曰ク印度  
 教ノ教義ヲ「シヤストラ」ト云フ) 及ビ拜像ヲ駁シ心ト行  
 ノ清淨ヲ主トシマホメツト教ノ他教ヲ窘迫スルコトヲ  
 駁スカビールノ教ノ欠點ハ無爲ノ秘密教及ビ族制論  
 ノ如キニ於テ濫リニ歩ヲ讓ズルノ甚シキコトニシテ之  
 レヲ要スルニ果斷ニ乏シキモノナリ  
 亦タ平穩ナル秘密教ヲ唱フレドモ然カモ一層大ナル  
 結果ヲ博シタル者ハカビールニ繼ギシ *Nanak* (千五百卅  
 九年死ス)ニシテ「コラ―ン」及ビ「ヒシツ―シヤストラ」ヲ

排撃シ自ラ開祖トシテ他ノ「ヒンヅ―シヤストラ」ヲ編  
 ミ之レヲ *Granth* 即チ「聖書」ト名ク之レマホメツト教ト  
 印度教ノ調和トモ云フベクマホメツトノ超絶一神教  
 稍ヤ勢ヲ失ヒ印度的ノ凡神教ノ勝利ヲ示ス潔行ト「パ  
 クチ」ハ教旨中ニ最モ勢力アルモノナレドモナーナツ  
 ク其ノ人及ビ后チ又々其ノ弟子等モ *Guru* 即チ「預言者」  
 トシテ大ナル勢力ヲ有セリナーナツクノ改革モカビ  
 ールノ改革ニ均シク土中ニ埋没セン有様ナリシモ  
*Aurangzeb* 帝ニ刑セセラレタル「グル―」ノ子帝ノ政治ニ  
 與カリ從來ノ信仰ヲ單簡ニシ之レニ加フルニ信仰ハ







教育アル印度人トテモ多クハ其ノ生活公私ノ間ニ矛盾アルヲ免レズ例之朝ナ朝ナ煩細ナル宗法ヲ修シ盡シ手ニテ米ヲ食ヒ然ル后チ燦々タル純白ノ装ヲナシ金線ヲ織リタル帽子ヲ頂キ法廷ニ到テ滔々英語ヲ以テ英法ニ照シテ判決ヲナス日暮家ニ歸レハ急ギ洋服ヲ脱シ浴湯シテ其ノ俗務ノ爲メニ種々ノ族人ニ接シタル汚レヲ雪グ者アリ或ハ昨夜ハ目前ニ人々カ痴愚ナル所業ヲナシ不道德ナルトヲ爲スモ之ヲ咎メス今夜ハ僧政及ヒ迷信ヲ駁スル熱心ナル演説ヲナシ進歩ヲ獎勵スル者アリ或ハ炯眼ヲ有シテ熱心ニ女子ノ教

育進位ヲ唱フレドモ家ニ歸リ其ノ妻ヲ遇スル五百年ノ以前ト異ルナキ者アリ  
 印度ガ英政府ノ下ニ立テヨリ以來社會上及ヒ宗教上ニ印度ノ改良ヲ圖ルモノ之レヲ總括シテ「ブライモイ」スミス」ト名ク其最大ナル代表者ハセシニシテ佛陀以來印度ニ出デタル改革家ノ泰斗巨擘ト去レド歐羅巴人ハ愚カ印度人スラセンヲ解スルモノ少ナカリキ余ハ實ニセンヲ敬スルモノニシテ殆ンド十年ノ星霜ヲ最モ親密ナル關係ニ於テ送リタリシガ千八百八十年以降ハ余ニモ了解シ得ザル印度的ト基督教の



秘密教ミエスチキスヲ教ヘタリ其ノ要點ハ不明ナガラ凡ソ次ノゴ  
 トシ(一)唯一ノ神唯一ノ聖書唯一ノ教會(二)靈魂永久ノ  
 進歩(三)預言者及ビ聖人ノ交(四)神ハ父タルコト及ビ神  
 ハ母タルコト男子ハ兄弟タルコト及ビ女子ハ姉妹タ  
 ルコト(五)智識ト神聖愛ト業Yoga(神トノ交)及ビ苦業ハ  
 一ナリ(六)忠義最モ余ノ心ヲ動カシタルハセンノ死ス  
 ル暫ク以前ニアリシ悲曲ナリセンノ母ハ印度教ヲ固  
 信スルモノナルガ一日センノ苦痛ヲ見テ嘆シテ云ケ  
 ルハ「ケシヤ」ブ汝ハ何故ニ斯ク迄多ク苦難ヲ受クル  
 ヤ我ガ罪ノ報乎汝ノ罪ノ罰乎」セシ答ケルハ最愛ノ母

ヨ此ノ苦ハ我ガ爲メニ清キ喜ノ源泉ナリ」ト去レド母  
 ハ其後モ自己ノ罪業ノ故ニ子ノ不幸ヲ來タシタルモ  
 ノナリトテ只管之レヲ嘆キケレバセン慰メ云ケルハ  
 「勿体ナキ御言葉カナサナ嘆ダキ玉ヒゾ我母ノ如キ慈  
 愛ナル何處ニ又タ見ルコトヲ得ベキ我身我物スベテ慈  
 母ノ賜ナリ鴻恩ナド忘ルハコトナルベキ」トテ母ノ足  
 下ノ塵ヲ取テ之レヲ頂キ拜シケリ其ノ死スル前夜教  
 會中頌歌ヲ能クスル人々ヲ集メ最終ノ讚美ニ心ヲ慰  
 メヌ見ル人聞ク者ゲチエマ子トニ在リシイエスノ苦  
 ヲ思ヒヤラヌハ無カリシトゾ



セシ「ブラーモ、ソマヂユ」即チ New Dispensation (新黙示) ハ  
現今 Protap Chander Masumdar ノ率ユルトコロナルガ氏ハ  
セシノ親友ニシテ極メテ正直温順敬スベキ人物ナリ  
セシノ死スルヤ氏ハ亞米利加ニ遊説中ナリシガ其ノ  
間教會ニ紛紜ヲ生シ一黨ハセシハ非凡ノ人物ナリ之  
レニ繼キ其ノ講壇ニ登ル者アル可ラズ其ノ靈ハ常ニ  
在ルヲ以テ其ノ踏ミタル座麈ハ大切ニ保存シテ汚サ  
ル、事アル可ラズト云ヒシガマスムダルハ之レヲ駁  
セリ其ノ后和睦ノ約成リセシノ座ハ常ニ開ケ置キマ  
スムダルノ座ヲ遙カ下ニ置クコト定メタリマスムダ

ル世ニ在ラン限りハ幸イニ其虞ナシト雖モ彼レ一タ  
ビ眠テ后チセシヲ神トシ敬スルコトヲ爲スモノアラバ  
セシノ「ブラーモ、ソマヂユ」モ亦タ印度教ノ一派タルニ  
皈セシ浩嘆ノ限ニコソ  
一層有力ナルハ超絶神教及ヒ理性教ニ傾キタル「サダ  
ラシ、ソマヂユ」ニシテ長老教會ノ組織ヲ成シ A. M. Bose  
及ビ著述家ノ Schivanath Schastri ノ如キ著名ナル人々之  
レヲ率ユ役員ハ毎年改撰セラル、會長ト書記ナリ該  
會ハ快活ニシテ且ツ迷信過激等ノ危険ナケレトモセ  
ント分離シタルガ爲メニ宗教的ノ熱情ナシ去レドモ



ニ角印度ノ最大一神教會ハ該會ニ外ナラズシテ宏壯ナル一大會堂ノ外一ケノ神學校及ヒ數多ノ夜學校アリ殊ニ歸人ノ熱心ナルハ感スルニ餘リアリ其女ニシテ見事ナル成績ヲ以テ大學ヲ卒業セルモノ少カラズ且ツ一ケノ傳道會社ヲ有シテ四方ニ傳道者ヲ派出シ委員ヲ設ケテ傳道者ノ家族ヲ保護スルヲ勉ム……米人オルクットトノ創メタル所謂靈智教ナルモノモ千八百七十年代ノ末ニ印度ニ來リシガ初メハ「ブラ」モノ款待スルトコロナリシモ遂ニ有力ノ運動ヲナス能ハザリキ之レ外人ノ齋セシモノナルガ故ニ印度人ノ感

情ト思想ニ適セザリシノミニアラズシテ其ノ罪オルクットトノ妖怪説スピリチズムニ在リテ魔氣ヲ封ズルコトナド唱タルニ依ル已ニ「ソマデユ」ノ如キ國人ノ手ニ依テ遙カニ純粹高尚ナル改良ヲ企ツル折柄斯カル外人ノ齋ヲシタル淺近奇恠ノモノガ運動ヲ逞フシ得ザル決シテ怪ムニ足ラザルナリ

最近ノ改革家ハ南印度ノ著名ナル政治家ノ一人 *Madhava* *Rayar* 其人ニシテ其ノ説ニ曰ク「全人類ノ幸福上ヨリ云フキハ或ル宗教ヲ有スルハ宗教ナキニ勝ル萬ヤナリ」ト而シテ當世ニ適スル一宗教ヲ興ス爲メニ印度人ノ書



籍ヨリ其精萃ヲ摘シテ望ミ次キノ如キ方案ヲ呈セ  
 リ(一)吾人ノ再興シ或ハ改良セント企ツル宗教ハ現今  
 ノ時勢ニ適スルモノタルベキ(二)印度教ノ要旨ハ其  
 内ニ含レザル可ラズ(三)殊ニ道德ノ點ニ重キヲ置キシ  
 ヤストラノ有スル位ヲ以テ之レニ與フベキ(四)シヤ  
 ストラ中ニアル迷信愚痴不要ナルヲ不淨ナル事ハ除  
 キ去ルベキ(五)之レヲ實行スル人々ノ器量及ヒシヤ  
 ストラノ能ク應用ニ勝ユルヲ依テ此ノ改良ノ成就  
 スベキ(六)之レヲ要言スレバ「シヤストラ」ヨリ新信仰  
 ヲ抽出シテ世界教トシテ耻ヂザルモノヲ作ル(七)教

育アル印度人ハ吾人ノ信仰ノ改良ニ與ツテ盡力スベ  
 キノ責アル(八)歐人ニシテ吾人ノ友タル者ハ此ノ信  
 仰ニ愛ト不偏ヲ表スベキ(去レドヤールハ千万遍  
 證セラレタル經驗ヲ再ビセザル可カラザリシ即チ宗  
 教ハ種々ノ教條ヲ巧ニ蒐集スルニ依テ成ルモノニア  
 ラズシテ只ダ宗教的ノ俊傑セニキスヨリ出ヅルモノナルヲ



明治廿二年七月八日印刷  
明治廿二年七月九日出版

抄譯者

愛媛縣士族

丸山通一

東京府下神田區駿河臺鈴木町七番地シユミール方

版權所有者

東京府士族

草間時福

東京府下神田區駿河臺四紅梅町十三番地

發行者

福井縣平民

柳原新一郎

東京府下神田區裏神保町一番地

印刷者

滋賀縣士族

熊田宜遜

東京府下神田區松木町十三番地

版權  
所有

賣捌所

敬

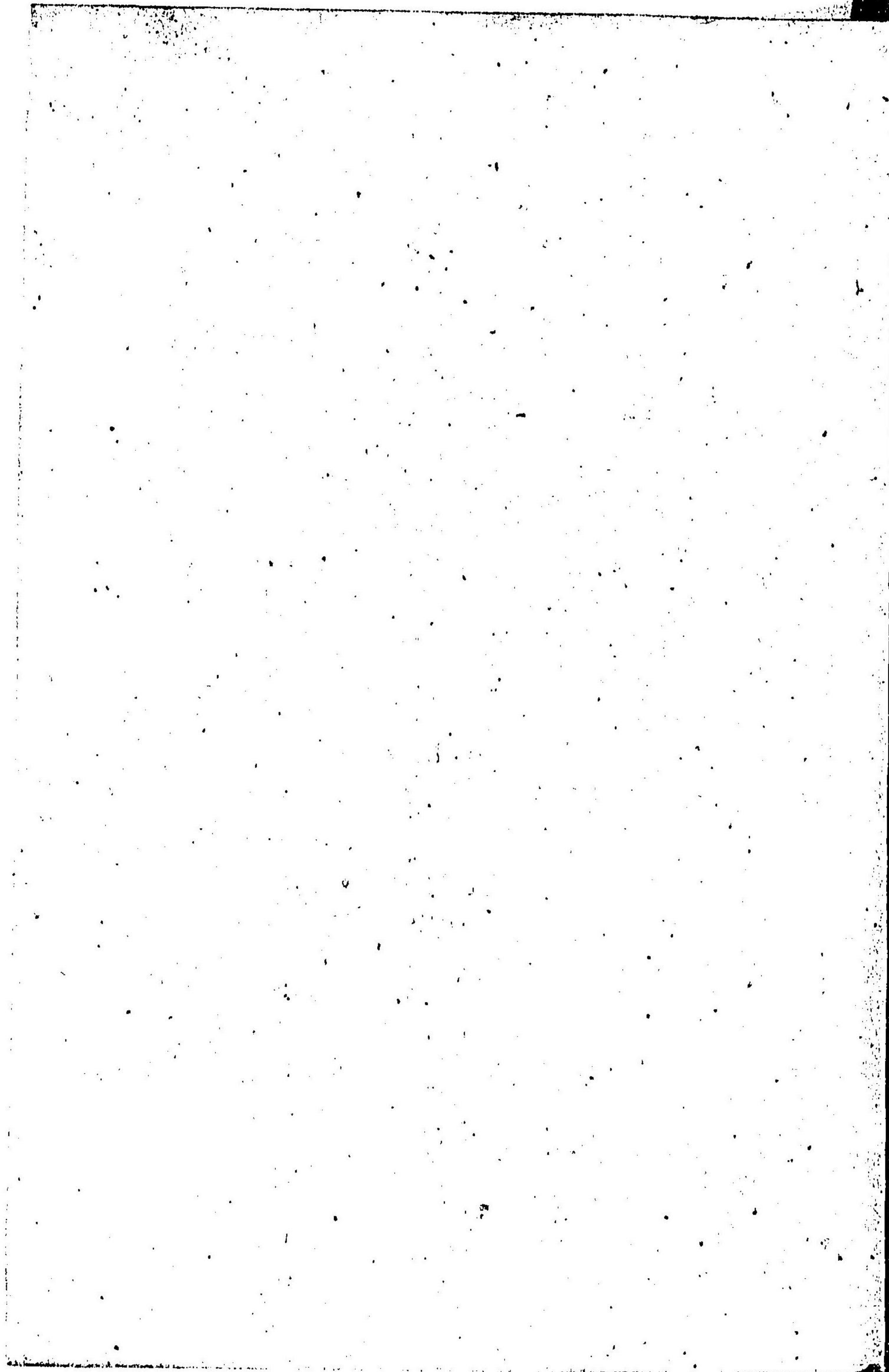
業

社

東京府下神田區裏神保町一番地

定價十五元

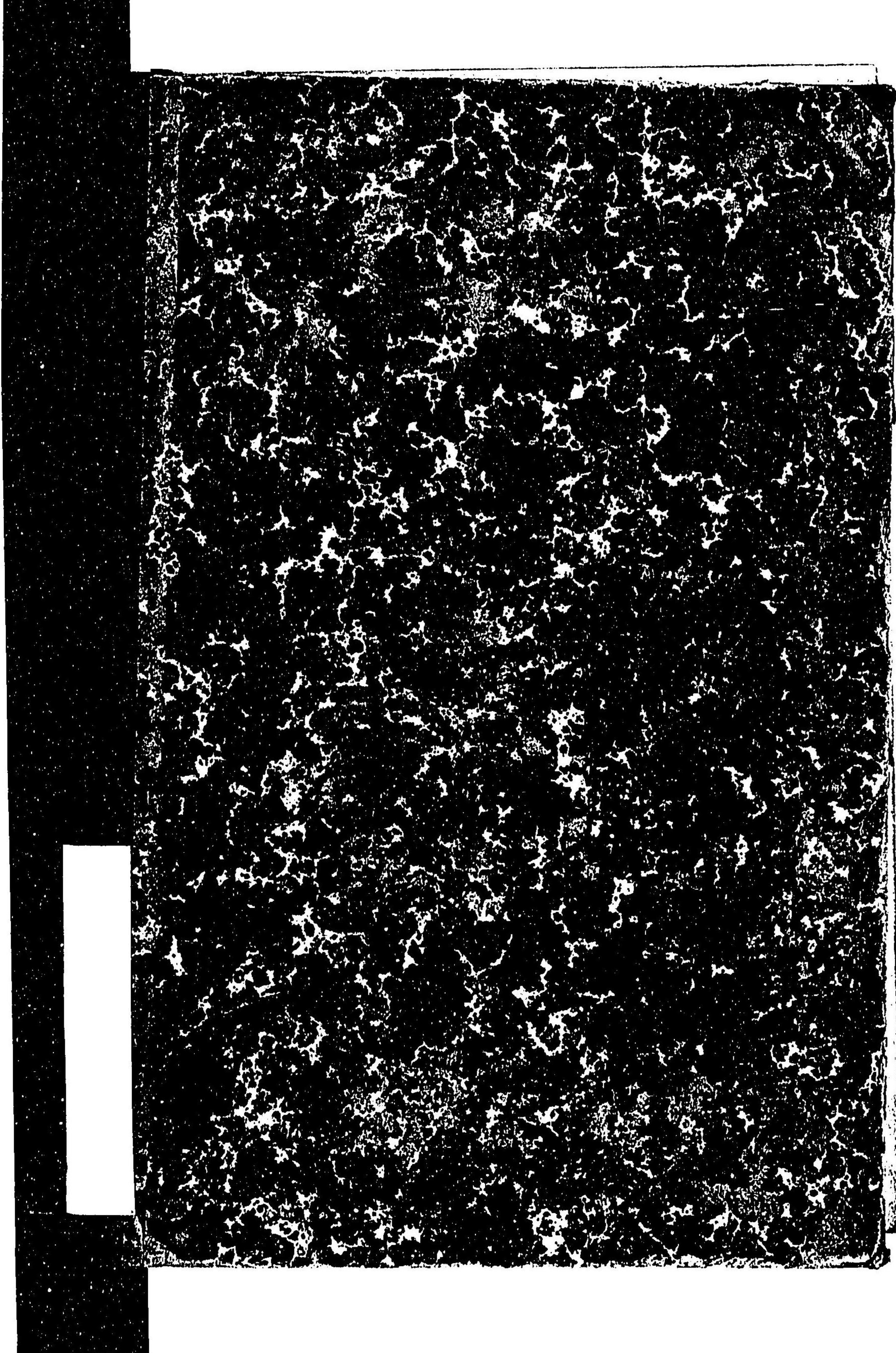






19
180







19

180

013546-000-4

19-180

印度之新現象

スピネル/著

M22

ABA-0007





